

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174701037		
法人名	医療法人前田クリニック		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	上川郡清水町南1条3丁目20-2		
自己評価作成日	平成25年3月7日	評価結果市町村受理日	平成25年4月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL /index.php?action.kouhyou_detail.2012.022.kani=true&JigvosvoCd=0174701037-0

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・医療との連携が強く健康面での不安については、かかりつけ医や看護師が、どんな場面でも柔軟に対応を行ってくれ、入居されているご本人だけではなく、ご家族からも安心できるとの声が聞かれています。また職員も常に入居者様が主体とした生活が過ごせるように環境作りや支援に努め入居者様とご家族様から、そして地域の方々にご協力を頂きながら、清水町に根ざした愛されるグループホームを目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成25年3月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームの生活の中心に入居者がいる」を理念に掲げ、管理者、職員は利用者の人生を尊重し、喜怒哀楽を共有しながら自分らしく生活できるよう支援し、更に、認知症の理解と実務や気持ちにゆとりをもって対応する事をユニット目標にし、サービス向上に努めています。月に一度の職員会議では利用者のモニタリングを全員で行い介護計画に反映すると共に、事故防止、身体拘束虐待、感染予防対策、サービス向上の各委員から報告と提案があり協議し、運営に役立てています。中心商店街に立地していることから平成18年に開設以来、地域との関わりを大切に与えあわずつづてはありますが協力関係を構築し、今では、緊急連絡網への登録や、運営推進会議には前町内会長や、近隣住民が委員となり多くの意見を得たり、地域活動「冬ホタル」に参加してアイスキャンドル製作で貢献しています。運営母体が医療法人であり院長の往診や、看護師、薬剤師の協力を得て介護計画を作成し、一人ひとりの現状に合ったサービス提供に努めています。気持ちの安定や、安らぎにつながることから外出支援に積極的に取り組み楽しい生活を送る事を心掛けた支援を行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲示し、管理者と職員は常日頃から意識してより良い支援ができるように心掛けています。また年に一度、評価を行ない職員の周知徹底に努めている。	玄関と事務室に理念とそれを基に作られた各フロア目標が掲示され日常から意識して実践に繋がっています。毎年事業計画を作成し年度末には検証して管理者、職員が介護サービスの向上に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事等へは、入居者の希望を確認し、体調に合わせ参加している。また、「ボランティアやヘルパー実習の受け入れを通し交流に努めている。	地域の祭り等の行事や、協力関係にある高齢者介護施設の行事には利用者と積極的に参加しています。又、クリニックと共催の合同夏祭りには利用者家族や交流のある地域住民の参加があり相互交流に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が研修会を通して報告をしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して日常生活での様々な報告を行い、意見を頂きサービス向上に努めている。	運営推進会議は年6回、利用者家族、町保健福祉課、包括支援センター職員、高齢者介護施設職員、民生委員の出席を得て開催され、入居状況、活動報告を行い意見を得て運営に活かしサービス向上に努めています。又、欠席した家族には議事録を郵送し情報共有に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当職員から、適宜アドバイスを頂き、事業所運営の適正化を図り、グループホームの質の向上に努めている。	日常よりボランティア団体で町若手職員との活動をしたり、十勝振興局での研修会等があり、積極的な交流をして協力関係を構築しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常のケアの中で話し合う他、会議にて取り組みについての報告等で理解を深めるように努めている。また、定期的に職員に対し、アンケートを行い身体拘束に繋がること行為がないか身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束虐待委員会を作り月に一度の会議の中で、禁止対象となる行為や、言葉について委員からの報告や、提案があり管理者、職員全員で話し合い身体拘束をしない介護に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、定期的に職員にアンケートを実施し虐待に繋がることがないように努めている。他にも日頃の言動にも注意している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・倫理要綱成年後見制度は、職員等誰もが読めるよう掲示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際には、必ず、十分に説明しご家族の同意、理解を得ながら行っている。また、疑問、不明な点などは、その都度説明しご家族の負担にならないよう配慮した対応を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置し書面で投稿できるよう対応している。苦情担当や、第三者の苦情受付を設置し、ホームに対しての苦情を広域で聞けること化できるような体制づくりを行っている。	運営推進会議出席時や年2回の家族参加の行事や、その他来訪時を意見や要望を得る機会としてとらえ、管理者、職員が積極的に会話をするように心がけています。玄関に大きな意見箱を設置し書面で表明できるようにも対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を行い、職員同士で話合う機会を設け意見や提案を引き出せるようにしている。また、適宜、職員に対しても日常の悩みなどについても話せるように面談なども行っている。	管理者は、毎月の全体会議、各フロア会議時を職員の意見を把握する場としてとらえ、意見や提案を引き出すよう努めています。職員は、事故防止、身体拘束虐待、感染予防対策、サービス向上の各委員会を担当し意見、提案を運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、働きやすい職場環境作りを目指している。今後も職向上心が持てるような職場環境を目指していきたい。職員の個人面談は行なえていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、勉強会などに参加できるように努めている。勤務上の理由で参加出来ない職員においては参加した職員から伝達し繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にある事業所と連携を図り行事などに参加し交流をしている。十勝グループホーム協議会での研修会を通じ、質の向上に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ケアマネジャーと面談し事前に情報を得て安心して入居生活が送れるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にホームを見学して頂いている。本人、家族に説明をし要望に応えられるように努め、スムーズに入所できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に情報を収集しアセスメントを行ないケアプランを作成している。他のサービス利用を含めた対応には努めていないが当法人の社会福祉士と連携し必要に応じた社会資源や他のサービスについて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、入居者と職員が日々の生活の中で助け合いお互いに支えながら関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて、ご家族の協力を得ながら、入居者がホームで穏やかに過ごせるよう関係づくりに努めている。ご家族の面会の際にも情報の共有を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の催しなどに参加したり、買い物や散歩を通して馴染みの場所や知人に触れ合えるように努めている。	利用者の知人、友人の訪問があり、居室での談話の時にはお茶出しをして接客し支援に努めています。又、電話の依頼にも応じ支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立感を抱かないように職員がさりげなく声掛けし精神状態を把握しながら入居者同士の関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、ご家族には季刊誌を送付しホームでの活動報告をし繋がりを保持できるようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に面接でご本人の希望、意向の把握し、ケアプランに記載している。意向等把握が困難な場合も本人の視点で家族や職員で話し合いその人らしい暮らしが出来るよう支援に努めている。	利用者一人ひとりの思いや、意向は、利用契約時の面談やアセスメントと、日常の会話の中で把握してその人らしい生活が出来るように支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの情報を元にし馴染みの関係や環境の把握に努め、ホームでの生活が安心して過ごせるように支援している。また、必要に応じて、関係機関と連携を図るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員側からの一方的な生活(ケア)の提供ではなく、個々の過ごし方を尊重し記録などに残し職員間での情報提供をしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族だけではなく、各専門職の意見や助言を取り入れる他にモニタリングをフロア会議内で行い意見やアイデアを反映し安心して生活できるよう総合的な介護計画を作成できるように支援している。	サービス担当者会議での家族の参加はありませんが、来訪時や電話で意向を確認し計画に反映しています。介護計画は概ね3ヶ月で見直し、医師、薬剤師、看護師の意見や助言を受けながら職員全員で話し合い情報を共有して現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日常生活の過ごし方の様子をできるだけ細かく記載し会話やしぐさなどからニーズを把握し介護計画に反映している。また、職員間での情報共有にも生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、法人内での医師、看護師と連携し迅速な対応ができるように心がけている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々なボランティアなどの協力もあり、ホームでの暮らしを楽しめるように努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人のグループホームであり、かかりつけ医と入居者、ご家族と信頼関係が出来ている。2週に1回の往診があり、健康状態を常に把握できるように努めている。	利用者のかかりつけ医はほとんどが運営母体の病院であり2週に1回の往診を受けています。他病院への受診は家族対応時でも管理者、職員が同行して状態を報告し、適切な医療が受けられるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時、看護師も同行し健康状態の把握ができるようにしている。また、急変時、夜間帯なども電話で助言、対応してもらい協働してくれている。入居者、ご家族に安心してもらえるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(入院など)環境の変化で精神状態の悪化やき急激な認知症の進行を防止するために、スタッフは入院先に出向き、本人に面会する他、看護師などと情報交換をし他の職員にも報告を行い、早期退院に向け支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にグループホームでのターミナルケアの趣旨を説明すると共に適宜、疑問や不安なことなどを聞き対応している。入居者、ご家族が安心できるように支援している。	重度化した場合や終末期については、利用契約時に、利用者、利用者家族に取り組む方針を説明し、アンケートで意向調査をし同意を得ています。母体が医院であり院長の往診や、看護師の訪問で職員との連携が取れており安心に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時など医師、看護師の協力を得て対応しているが、定期的に訓練を行っている状態ではない。夜間帯は待機職員の応援を得られる体制を組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練など適宜実施しており、関係機関と連携を図り、助言、指導を受け対応している。また、毎月1回自主点検を行っている。	毎月の自己点検と年2回の避難訓練を、消防署指導のもと行っています。近隣住民とは緊急連絡網への協力や、訓練への参加協力等、協力関係を構築しています。又、緊急持ち出しファイル、備蓄、暖房機器の整備等、対策をし、非常時に備えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや、声の大きさに配慮し日常生活を支援している。個人情報についても、個人ファイルを作成し管理保管している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し適切な声掛けや対応を心掛けています。又、排泄や入浴にはプライバシーを損ねないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話や表情などからご本人の思いや要望を読み取れるように努め個々にあった支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重しその人らしい日常生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある理容店があれば行けるよう同行するなどして支援している。また、状態に合わせホームでの理容の相談も対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	以前より入居者と職員が一緒になって準備する機会は少なくなってきたが、食事を準備する環境を工夫、検討し対応できるように支援している。	献立、調理は職員が行っています。廊下の壁には献立ボードがあり、2日分の献立を載せ、家族の来訪時に解るようになっていきます。外食や出前等も行い楽しい食事となるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、飲水量などは記録し把握できるようにしている。また、身体状態などに応じ食事形態の工夫や検討をし栄養状態などの確保を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝時などご本人の状態に合わせて口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせた対応をしている。フロア会議内で検討はするもトイレでの排泄自立に向けた支援までは至っていない。	利用者一人ひとりの行動表に排泄記録を付け、パターンを把握し声掛け、時間誘導をしています。夜間には家族の要請でポータブルトイレを置き支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動等の対応は行ない自然排便ができるように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決めている。ゆっくり入浴できるように業務改善を行なった。身体的状態や本人の要望などがあったときは、出来る限り柔軟に対応している。	週2回の入浴を基本としていますが、利用者の希望や、その日の状態に合わせて介助しています。利用者が自分の出来る事は見守りを楽ししい入浴になるように心がけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、生活リズムを整えられるように支援している。また、寝付けない時などは会話などをして心が安らぐように工夫し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬に関してファイルし保管している。また、必要時、内服薬の種類や副作用について、薬剤師や医師などにも相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で役割を見つけ、ご本人の負担にならないよう、能力にあった作業や趣味活動を支援し気分転換などに繋がるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望があれば外出ができるよう調整し地域との繋がりを大切に個々の支援ができるよう努めている。	外出をすることでの、利用者の表情や精神的な安定が得られるとの観点から町内行事や季節のドライブ、地域活動参加と積極的に外出支援できるように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族にも説明し理解を得て、個々の希望に応じて金額を決め所持できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話を設置し、希望時に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなど自然の光が差し込むようになっており、必要に応じて、カーテンなどで調光し対応している。また、季節に合った装飾をし工夫をしている。	居間や廊下の共用空間は広々としており、壁には、行事の写真、貼り絵、塗り絵が飾られ、水槽には金魚が泳ぎ心を和ませています。食卓の椅子に硬式テニスボールで細工をし利用者が片付けやすくする工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に畳やソファを置き入居者が個々に落ち着いて生活できるように工夫し状況に応じて柔軟な対応ができるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際には、ご本人、ご家族と相談し、馴染みのある家具などを持ち込んでもらうように支援し環境整備をしている。	利用者一人ひとりの居室には使い慣れたベットや筆筒等の家具、家族の写真やぬいぐるみ人形が飾られています。又、加湿器で乾燥を防ぎ快適な空間となるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造になっており、浴室もADLが低下しても安心して入浴できるように補助具を整備している。安全でできるだけ自立した生活ができるよう考慮している。		